

流山稲門会会員になって

副幹事長 須賀勝巳 80年法卒

私は、50歳代半ば過ぎに流山稲門会に入会しました。転勤族であったうえにこれといった趣味もなく、退職後、妻と過ごす以外の時間を如何に過ごすか、その候補の一つとして交流パーティに初めて参加したことがきっかけでした。そこで、会の雰囲気に着かれ、入会を決意し、続いて総会や地区分科会にも参加してみました。いつしか役員に就任し、会の運営の一端を担うようになって現在に至っています。これまでは、平日

の活動が困難でしたが、退職した今、コロナ収束と共に同好会活動へも参加を考えています。何といたっても、メンバーが全員早稲田出身ですので、安心感と周囲への余計な気遣いが不要という気楽さが最大のポイントです。これからも、私にとって充実した時間の一部は、流山稲門会であり続けます。会員になるかどうかを決めかねていらっしゃる皆様には、まずは、連絡または参加といった扉を叩いてみて下さることをお勧めします。



副幹事長 安藤均 80年政経卒

東京生まれの東京育ち、卒業して銀行に就職。51歳のときに退職、以後、勤務先は幾度か変われど現在もフルタイム勤務です。TX 開通もあって2009年流山に転居。既に子供も独立、両方の親も見送り。夫婦二人の生活をエンジョイ。ゴルフクラブに入会、ほぼ同時に、ブログで流山稲門会の存在を知り、連絡。即、高橋幹事長(現会長)から返信、2区懇親会@庄屋に参加。幹事になるように勧められ、役員会(その後の懇親会!)・

総会・交流会、ゴルフ同好会。更に副幹事長・企画委員に下命、2区世話人補佐として懇親会幹事もしました。先日放送のアド街で紹介されていましたが、古き良きものと新しく若々しいもの、そして自然豊かな流山に惹かれています。コロナ禍で臥薪嘗胆の日々が続いています。役員会も再開し、徐々に巡航速度となるでしょう。今後は同好会活動の発展形として、自然を守る活動などを通じた地道な会員獲得活動などはいかがでしょうか。



副幹事長 清水雄司 75年理工卒

リタイア後、充実した日々を送るために何をすべきか考えていたおりに交流パーティの案内が届き、何かが見つかるかを確かめたく参加しました。会社で金融システムを担当してきたことから、当日紹介された株式同好会に入りました。その後、登山同好会に入会し未知の世界に踏み込んだり、流山稲門会関係者が進めている「明日も平和であるために」を推進する会で小学生への平和教育に関与したり、期待した以上に充実し

た日々を送ることができています。これらは稲門会の先達の方々が、親身に導いてくれたお陰であると思います。企画やIT関連の活動を通し会運営に寄与することや分科会の世話役として地域の仲間の懇親を深めたいと考えています。早稲田の仲間の前向きな姿勢や気持ちの良さ、校友や学生の頑張りや母校の新たな取り組みを目にすることに心地よさを感じつつ、より多くの同窓の仲間たちとこの心地よさを共有していきたいと思ひます。



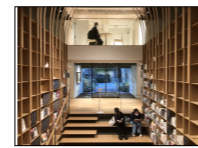
国際文学館(村上春樹ライブラリ) 訪問

10月1日に「村上春樹ライブラリ」が開館しました。テレビ、新聞等の報道を目にした方も多いのではないのでしょうか。そこで、事前予約・時間帯指定・総人数規制・1グループ3名迄などの制限がある中、11月26日に訪問しました。場所は早稲田キャンパス、演劇博物館のはす向かい、流線型のアーチが入り口ですぐ



に見つけることができます。昨今お決まりの検温を済ませ、予約メールを提示して入館です。館内では村上作品を年代順に見る事が出来、数々の初版本、翻訳本、書齋を再現

した部屋、経営していたジャズ喫茶で使用していたピアノなどを見ることが出来ます。本は手に取って自由に読むことができ、来訪者が熱心に読んでいました。階段本棚にはテーマに沿って本が並んでおり、階段に腰掛けて読むことができます。最後に地下にあるカフェで学生が丁寧に入れてくれた珈琲を満喫しながら学生時代を振り返りました。新しい施設を見学しがてら大学の雰囲気を味わいに行ってみるのも良いのではないのでしょうか。 79年社学卒 山本昌玄



階段本棚 2階筆者

早稲田スポーツ 東京オリパラメダリスト一覧

編集部

東京2020オリンピック競技大会	学生8名・校友22名が出場、金メダル2、銀メダル1を獲得
須崎優衣	スポーツ科学部4年 レスリング部 女子50キ級 金メダル
加納虹輝	スポーツ科学部卒 フェンシング部 男子エペ団体 金メダル
本橋菜子	スポーツ科学部卒 バスケットボール部 バスケット女子 銀メダル
東京2020パラリンピック競技大会	学生1名・校友4名が出場、金メダル1、銀メダル2、銅メダル2
鈴木孝幸	教育学部卒 水泳部 50m 平泳ぎ銅メダル、100m 自由形金メダル、150m 個人メドレー銅メダル、200m 自由形銀メダル、50m 自由形銀メダル

流山稲門会会報

発行責任者 会長 高橋孝志
電話 080-5180-0982
流山稲門会ブログ LINK→
http://tnagareyam.exblog.jp
入会希望の方は「流山稲門会のご紹介」をご参照下さい。



コロナ禍における流山稲門会2021年の活動

2021年はコロナ禍の緊急事態宣言やまん延防止措置等に伴う大学当局からの要請・勧告に基づき、当会も活動自粛の年でしたが、感染防止策を徹底しつつ会運営上行ったことは多々あります。流山稲門会の活動全般に関しご理解を深めていただきたく、2021年の活動について概括しました。



1. 総会：毎年3月に実施している集会を取りやめ、紙面総会とした。会員の皆様に議案書を届け、賛否をいただき、全議案の賛同を得た。
2. 交流パーティー：毎年10月に実施しており、会員相互の親睦を促進し、新会員の獲得を図る良い機会であるが、企画段階でコロナ収束が見通せず、やむなく中止とした。
3. 事務局会議：会運営の事務的側面の詰め作業(名簿の整理を含む)を3月、8月の2回実施した。メンバーは高橋会長、石井孝幹事長、須賀、清水、安藤、稲垣
4. (拡大) 三役会議：役員会を推進・補弼するため、課題の抽出、要点整理等を4月に実施した。メンバーは会長、副会長、幹事長、事務局、企画委員長、鈴木相談役、水上相談役、鈴木会報担当幹事
5. 企画委員会：総会・交流パーティーの企画に加え、20周年記念事業の企画立案等のため、4月、5月、9月、11月に開催した。企画委員：渡辺委員長、須賀、清水、安藤、宮内アドバイザー
6. 役員会：参加可能な全役員により2か月に一度の頻度で行っていたが、今年は実施可否を判断しつつ、6月、10月、12月の3回実施した。別途1月に総会議案の決議をメールベースで行った。
7. 千葉県稲門祭：高橋会長が実行副委員長として企画検討、および実施推進を担い、石井幹事長が参加者名簿を取り纏めた。初めての対面とオンラインの併存方式であり、流山稲門会から合わせて19名が参加した。
8. 20周年記念誌：2022年の設立20周年に上梓すべく、企画・構成・資料収集・作成を稲垣幹事を中心に編纂委員会のメンバー(鈴木(一)、水上、笠井、清水、鈴木(禎)の各氏)が進めている。多くの会員にご協力いただき、20年の歴史が彷彿できるよう編纂中である。
9. 会報：清水幹事が主幹として企画・制作し、2月と8月の2回配布した。8月会報(38号)には活動報告、トピックに加え、コロナ生活に関する会員アンケートを実施し、多くの回答を得て会報に概要を掲載した。
10. 寄付金拠出：大学および校友会の支援依頼に基づきWASEDAサポーターズ倶楽部50,000円、コロナ対策支援50,000円、早稲田祭10,000円、所沢キャンパス祭5,000円を拠出した。
11. 分科会会動：やむなく全ての区の会合は中止し、メンバー間のメールでの情報交換に留めた。
12. 同好会：メンバー間のメールでの情報交換に留め、原則すべての会合は休止としたが、俳句同好会「ゆずりは」は通信句会の方式により毎月実施し、9冊目の句集を発行した。また、登山同好会は屋外の大自然につき、感染防止を徹底のうえ、6月、11月に日帰りの山行き、12月に忘年登山を実施した。コロナ感染が下火となり緊急事態宣言の解除に伴い校友会から活動ゴーサインが出され、散策会は一昨年の12月以来1年10ヶ月ぶりに10月に再開、ゴルフ同好会も約2年ぶりに12月にコンペを再開した。
13. 早稲田大学商議員フォーラム：大学からの諮問の審議、大学に対する建議を担う商議員フォーラムが12月にオンラインで行われ、高橋会長、石井幹事長が参加した。
14. 早稲田校友会代議員会：各地各種稲門会から選出された代議員により、年2回運営に関する重要事項を討議する。メンバーは笠井副会長、牛島副会長、須賀副幹事長、2021年は2回とも書面決議となった。
15. 稲門祭運営委員会・同実行委員会：首都圏の校友会支部の推薦により選出、稲門祭の裏方のお手伝いを行う。須賀副幹事長(運営委員)、牛島副会長・安藤副幹事長(実行委員)がメンバー、今年は実行委員会は中止、運営委員会は2回オンラインで開催し、稲門祭前日と当日に福引抽選・賞品発送を行った。
16. 各種オンラインイベントに参加
 - 2月 千葉県稲門会「若手の会講演会」総勢140名参加し、当会からは7名参加した。
 - 9月 校友会「第1回校友のためのオンライン講座体験セミナー」瀬古利彦、渡辺康幸対談
 - 10月 「ホームカミングデー」および「稲門祭」

コロナの影響で中止せざるを得ないイベント等が発生したものの、工夫しつつ運営を継続したことが今年の特徴であった。オンラインイベントの参加やリモートによる意見交換にもチャレンジし、会として新たな側面が進歩したと思われる。2022年は会員の皆様と共に更に活動的な1年と致したく、積極的な参加をお願い致します。